

平成30年度運営諮詢会議

1. 日 時 平成31年1月10日（木）10時00分～12時00分

2. 会 場 宇部工業高等専門学校 大会議室（管理棟3階）

3. 出席者

○運営諮詢会議委員（五十音順）8名

安 部 研 一 委員
久保田 后 子 委員
津 田 賛 平 委員
三 隅 淳 一 委員

木 村 悅 博 委員
久 米 孝 宏 委員
堤 師 守 二 委員
井 浩 二 委員

○宇部工業高等専門学校教職員 20名

三 谷 知 世 校長
廣 原 志 保 副校長（研究担当）
石 尾 潤 校長補佐（学生主事）
仙 波 伸 也 校長補佐（専攻科長）
碇 賀 厚 電気工学科長
松 野 成 悟 経営情報学科長
三 浦 敬 一般科（理系）科長
池 田 晶 学生相談室長
岡 本 昌 幸 機関評価室長
西 村 文 隆 総務課長

日 高 良 和 副校長（総務担当）
武 藤 義 彦 校長補佐（教務主事）
内 堀 晃 彦 校長補佐（寮務主事）
藤 田 活 秀 機械工学科長
三 宅 常 時 制御情報工学科長
浅 原 京 子 一般科（文系）科長
畠 村 学 留学交流室長
碇 智 徳 キャリア支援室長
大 西 由 喜 男 校長補佐（事務部長）
尾 川 圭 三 学生課長

（陪席） 総務課副課長、学生課副課長、企画連携事務室副室長、総務係

4. 日 程

10時00分	開 会 校長挨拶 出席者紹介（本校側は、座席表に代えることで省略） 資料の確認 議 事 一、議長選出 二、議長挨拶 三、議題
10時10分	○「KOSEN-スポーツ」を題材とした人材育成への取組みとその展望
11時50分	議長挨拶 校長謝辞
12時00分	閉 会

5. 配付資料

- 運営諮詢会議開催要領
- 運営諮詢会議委員名簿
- 平成30年度運営諮詢会議 座席表
- 宇部工業高等専門学校運営諮詢会議規則
- 議題資料：「KOSEN-スポーツ」を題材とした人材育成への取組みとその展望
- 平成30年度宇部工業高等専門学校 学校要覧
- 宇部工業高等専門学校 第3期中期計画
- 平成30年度 宇部高専年度計画
- 平成30年1月～平成30年12月 宇部工業高等専門学校の動き
- その他
学校だより（96号 2018年12月）

(1) 開会

総務課長の進行により、運営諮詢会議が開会された。

(2) 校長挨拶

校長から、以下のとおり挨拶があった。

○本日の議題について

・現在、高専教育は大きな転換期点を迎えており、本日は我々がつくりだしたKOSEN-スポーツを紹介する。これは、スポーツのルールと道具を学生が知恵を絞って、高専の学生らしい、新しいスポーツを学生につくってもらう教育と地域活性化活動である。スポーツは、老若男女、全ての方々が取り組めるものであり、ゆくゆくは宇部市、山口県、日本全体に広げようという遠大な構想のもとにスタートした。

・国立高専の活動費である運営交付金が独立法人化してから毎年人件費1%、物件費3%削減が続き、厳しい状況である。しかし、ここ数年は文部科学省が高専教育を発展させる必要があるという趣旨で、運営交付金とは別に、目的を絞った特別教育研究経費が競争的資金として配分されている。このKOSEN-スポーツは、KOSEN4.0イニシアティブ事業として全国高専が78事業を申請し、34事業（32高専）が採択された特徴ある高専の活動のひとつである。

・本校は、地域に学生が出て、そこでいろいろなことを勉強する。さらに、海外の学校との交流、あるいは海外に高専教育を導入するという取り組みを進めている。

・また、ときわファンタジアのように、学生に工学の論理性、サイエンスの論理性にプラスして感性、美意識などを学生たちに学ばせたい、身につけさせたいという思いで教育環境を整備している。

○「平成30年1月から平成30年12月までの宇部高専の動き」から

・地（知）の拠点大学による地方創生推進事業COC+（代表：山口大学2015年度開始）
平成30年1月にCOC+の活動において、宇部高専の学生が、あさひ製菓と和菓子の共同開発を行い、期間限定で販売を行った。これは、学生が実社会に出ていき、企業活動に携わったという一例である。

・「第3回オープンデータアプリコンテスト宇部」において最優秀賞を受賞
受賞者は、卒後してチームラボというユニークな会社に就職した。いずれは、宇部に戻ってきて、新たなビジネスを展開してもらいたいと期待している。

・海外交流：地域と学生の国際化

ここ数年、交流を密にしている文藻外語大学（台湾）からインターンシップ生が

来校し、例えば英語専攻の学生は本校の英語授業のティーチングアシスタントや市内小学校での英語を使った小学生との交流活動。また、宇部市役所のインターンシップでは台湾人の目線で宇部市の観光企画の活動を行った。一方で、台湾の学生は本校の学寮で過ごすため、本校の学生との交流の機会も多く、本校の国際化にも貢献している。

・JICAプロジェクト：ベトナム研修教員の高専教育研修

ベトナムの工業短期大学に高専教育の導入支援を行っており、昨年はハノイにある工業短大から1名のベトナム人教員を10か月受け入れ、高専の教育方法について学んでもらった。また、国立高専機構は海外展開事業としてモンゴル、タイ、ベトナムに高専教育の導入支援を行っており、本校はベトナム担当の幹事校となっている。

・ときわファンタジアのコンテストで受賞：テレビ放映VTR紹介

本校学生が2チーム出展し、受賞した様子が12月19日KRYテレビで放映。

(3) 出席者の紹介、資料の確認

総務課長から、本日出席の運営諮問会議委員と本校教職員が紹介された。

引き続き、配付資料の確認が行われた。

(4) 議長の選出、議長挨拶

総務課長の進行により、本会議の議長として堤委員が選出され、堤議長から挨拶があった。

(5) 議 事

本 日 の 議 題

『「KOSEN-スポーツ」
を題材とした人材育成
の取組みとその展望に
ついて』について、堤
議長進行のもと、以下
のとおり本校からの説
明、意見交換、質疑応
答が行われた。



(日高副校長)

○実施の背景

- ・国立高専機構が来年度から第4期の新しい期間に入る。それに向けて、国立高専機構は、「KOSEN4.0イニシアティブ」と題して、各高専から第4期に高専が行うにふさわしい事業の公募を行った。宇部高専は課題解決型教育の充実を目指して、KOSEN-スポーツというものを申請し、採択された。
- ・高専といえば、テクノロジー・工学を中心とした教育機関である。現在、宇都市と山口大学工学部とで、工学と芸術を関連づける新しい分野の創出として「テクノロジー×アート」を手掛け、3年目を迎えている。ディジタル・アート集団であるチームラボの協力もあり、この事業は順調に推移している。
- ・この延長線上で、工学とスポーツを関連させた新しい分野を高専で創出させたいということでKOSEN-スポーツを考えた。
- ・この発想の基になっているのは、山口市にある山口情報芸術センター(YCAM)が実施している「未来の運動会」で、与えられた道具を使った新しいスポーツをいくつか考案して、それを運動会として開催している。

○KOSEN-スポーツの概要と目的



・クラスマッチで学生たちが実施した「パラレル鬼ごっこ」という競技をビデオ視聴。この競技は、鬼役の競技者4名がスマートフォンを取り付けたヘッドマウントディスプレイに映し出される4つの画面をみながら、そ

の他の参加者を捕まえる競技である。4つの画面は、鬼役の競技者4名がみている風景が映し出されている。

この競技は、学生たちがヘッドマウントディスプレイの装置を使ったスポーツのアイデアを話し合い、ルールを決め、試行して、実施要項をまとめ、当日の競技として完成させたものであり、課題・問題を見つけ、自ら考え、解決のために行動するという、本校が進めている課題解決・問題解決型学習(PBL: Project/Problem Based Learning)の教育方法に沿ったもので、学生の様々な可能性を引き出していきたい。

・スポーツを選んだのは、工学技術は難しいというイメージであり、それに対して、スポーツは誰でもすぐにイメージすることが出来ることから、スポーツを通じて工

学技術が身近であることを理解してもらうことが理由である。

・最終的には、高専発祥のスポーツを作る、全国にある高専へ広めて、その地域のご当地スポーツをつくり出したいと考えている。そのためには、小・中学校とか市民向けのイベントでの紹介が必要であり、その点のご協力をお願いしたい。また、テクノロジーを利用した運動ツールによって、スポーツに関心がない人にも目を向けてもらう機会をつくる、身体機能に合わせたスポーツをつくり宇部市民の健康増幅に寄与することも可能と考えている。

○なぜ高専でスポーツか

・本校は、昨年度から4学期制を導入し、本年度から学科学年横断型PBL科目として、プロジェクト学習とリサーチワークショップを開講した。この科目は、低学年から始まる科目であり、学科学年に無関係にチームをつくって、そのチームで課題解決をするという内容である。課題は、地域からの課題収集も含めて、基本的に教員が用意しており、その数にも限りがある。スポーツという言葉は低学年の学生にも理解しやすいものであるから、新しいスポーツをつくるという課題を提供して、これらの科目とKOSEN-スポーツの充実を実現する。一方、高学年の学生は、学んだ知識と技術を使って、低学年学生が考えたスポーツに使うツールを開発する。

・社会背景としては、国民、市民の健康志向による誰もが楽しく、長く取り組める運動、スポーツの創出、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた地方のムーブメント創出がある。これらの活動は、山口市のYCAMや運動会協会が手掛けている。このような活動にKOSEN-スポーツを活用していきたい。

○KOSEN-スポーツの効果

・高専の教育はロボコンや卒業研究も含めて能動的学习が基本であり、KOSEN-スポーツはこの学習を進めるうえで相性が良い。また、低学年はスポーツ（ルール）の開発、高学年はツールの開発と分けて目標を設定できること、作ったスポーツを学内の行事で実施し、一連の学習がPDCAとして学年進行され、学生の学習に効果があると考えている。

・KOSEN-スポーツを通じての地域の活性化への一助となれる可能性がある。

○取組状況

・本事業の採択決定は平成30年6月であり、採択後にYCAMへの協力依頼、事業推進計画立案、購入物品や運動会協会等の協力団体の情報交換を9月までに実施し、10月からYCAMのツールによるKOSEN-スポーツの宇部市内のイベント等で実施した。

・10月14日第2回まちなかWAKUWAKUフェスタへの出展

ヘッドマウントディスプレイを用いたパラレルアイズとビーチボールにスマートフォンを入れたYCAMボールを使った競技を来場者が体験した。パラレルアイズは、迷路の中をヘッドマウントディスプレイに映った画像を見ながら通り抜ける時間を競うという内容である。YCAMボールは、スマートフォンの振動センサーを利用して、10秒間にボールを振った回数をディスプレイに表示して、その回数を競うものである。50名程の方が体験した。

- ・10月19日、20日 スポーツハッカソン開催（学内）

クラスごとにチームを作り競技を行うクラスマッチの行事に加えるKOSEN-スポーツの競技を開発するために、学生会のメンバー14名によりハッカソンを開催した。アイデア出し、グループワーク、作ったスポーツの試行、ルール修正を経て、大玉相撲とパラレル鬼ごっここの2種目を開発した。

- ・10月31日 クラスマッチ

競技会場が1つしか確保できなかったため、パラレル鬼ごっこを実施した。

- ・11月10日・11日 高専祭

来場者でチームを作り、YCAMボールを振りながら、渡し、振った回数と渡し終えた時間を競う競技を行った。

- ・ツール開発は、卒業研究のテーマとして、ジャイロセンサーを用いた振動回数の検出・表示システムの開発を行った。雑音信号の処理など研究としてのテーマもあり、研究としても取り組むことが可能である。

○今後について

- ・地域教育として小・中学校でKOSEN-スポーツの実施、小・中学校のアクティブラーニングのひとつのテーマとしてKOSEN-スポーツのルールづくりを取り上げる、ご当地スポーツの創出、全国的なKOSEN-スポーツの大会開催などを考えている。
- ・この新しいテクノロジー×スポーツの分野が、この宇部の地から発信できるよう、地域のご協力をいただきたい。

（議長）

日高先生、ありがとうございました。

『「KOSEN-スポーツ」を題材とした人材育成への取組みとその展望』について、御意見等をお願いします。

（安部委員）

- ・商工会議所がまちなかで実施している事業に関し、御協力いただいていることに、まずお礼申し上げます。
- ・アクティブラーニングというキーワードがあり、中学、高校で実施していると聞いています。また、プロジェクト、問題解決のための教育は、社会に出るための一貫教

育ということで非常に意味があると思う。

昨年、実業高校の全国大会が山口であり、商業、工業、園芸、家庭などの内容の全国大会開催を企画から運営まですべてを山口県の実業高校の高校生がやった。高校生が何でこんなことができるのかと問いかけたら、これはアクティブラーニングという学習方法の成果と聞き、アクティブラーニングはこうやって人を育てるのだと実感した。

- ・資料を見たとき、KOSEN-スポーツとは何だろうかと、この取り組みは、高専のテクニカルとはかけ離れていると思ったが、実際には技術の開発までひつづけて実施ということは非常に面白い。

- ・技術の開発はいろいろ広がっていくとは思う。疑問としては、問題解決やPBLとして、最終形は、道具の開発に自分たちの技術をつなげていくということなのか、またはその過程を重視していくのか、どちらか。

(日高副校長)

- ・教育方針という点では過程重視となる。道具の開発に技術をつなげる点は、まだ、宇部高専としての計画案つくっていない。今のところ、今ある技術を使ってやる予定である。

高専と大学の違いは、高専は新しい技術をゼロからつくる教育ではなく、今ある技術を100%使いこなすようにする教育で良いと考えている。現時点では、既存の技術をどうスポーツに使っていくかということを主として考えている。

(議長)

よろしいですか。

(校長)

- ・補足する。道具立て、あるいは仕組みについて考え、それをテクノロジー的にやっていくのが高専の本来の姿である。既成のスポーツは歴史があって、それが最適だからと思ってやっている。しかし、そのルールをちょっと変えることによって何が変わるのが、そういったことも学生たちに考えてもらいたい。

また、健康志向ということで、スポーツと健康というのは密接にリンクしているので、小さい子供、青年、あるいは壮年、シニア、老人の方々、それぞれの体力に応じていろいろな動きが必要となる。例えば、運動量の測定方法や年配者ができる運動が何かを、ある程度サイエンティフィックに考えることは高専ができる。

(議長)

ありがとうございました。

(木村委員)

- ・山口県産業技術センターです。来期から高専は第4期が始まるということだが、産技センターは第3期が始まる。

今年度のインターンシップは宇部高専学生2名を受け入れているが、第3期はインターンシップのさらなる充実を計画している。地域の若い人たちが技術開発を経験し、経験したものを持たれて地域に生かしていただけるように実施したいので、今後とも宇部高専にご協力を願いしたい。

・質問は、この採択でのゴールは、KOSEN-スポーツをつくる仕組みをつくるのか、それともKOSEN-スポーツで新たなスポーツをつくるのかを教えてほしい。

そして、そのゴールがあった上で、終わった後にこれをどうしていくのか聞きたい。

(日高副校長)

・採択事業としては1年間限りであるが、ゴールは、こういったやり方で、どれだけ教育効果があったかを示すことを求められている。そのため、アクティブラーニング、PBLとしてKOSEN-スポーツを使えば教育が有効に効果的に行えることの検証とKOSEN-スポーツ実施マニュアルつくりまでがゴールである。

・宇部高専としては、今後も継続し、宇部市やにぎわい宇部での取り組みに協力し、まちなか再生等に寄与したいと思っている。

(木村委員)

1年間通してやったことを、来年度からは新たなPBLプログラムのプロジェクトの一つとして考えていきたということか。

(日高副校長)

そうです。学年・学科横断型の科目をつくったので、その中で実施する。

(木村委員)

その一つのプロジェクトとしては非常にいい課題だと思う。

(議長)

ありがとうございました。

(久保田委員)

これをベースにして、2019年度はさらに進化系をやっていくことはできるか。

(日高副校長)

はい。

(久保田委員)

・宇部市の新年度事業で健康づくり・エビデンスに基づく健康づくりということを計画している。医療機関が多い宇部市として非常にお金かけて、企業や大学と連携して、健康行政を実施しているが、経験と勘というところがあり、市民の健康度は伸びていない。現在は、スマートウォッチとスマートフォンを連動して、歩数などのデータを使った健康指導を実験的に実施している。新年度からこの健康指導を実施し、インフルエンサーを増やしていきたい。しかし、使えるツールは歩数計や血圧計、スマートウォッチであり、やれる運動はウォーキングやヨガ、ストレッチなどの従来型

のものしか考えられない。



- ・ KOSEN-スポーツを宇都市にも提供していただき、市の新年度事業に入れるのであれば、高専の協力をお願いしたい。

(日高副校長)

- ・ 卒業研究で作ったこの装置は、振ったらカウントするだけだが、対象者に必要な運動の

動きをプログラミングして、行った運動の回数をカウントすることは可能である。

データは、電子データとして記録できるからエビデンスつくりも可能である。

(久保田委員)

- ・ バラエティに富んだ体を動かす活動が広がり、参加者も増えると思うので、具体的に連携のご相談をさせていただきたい。

(校長)

- ・ ぜひ一緒にやらせていただければと思う。
- ・ スポーツというと、高く、速く、競う等で、極限や勝敗を目指すことが目的であるが、そうではなく、無理なく、ある範囲内にうまく入れるというようなスポーツも考えられる。そこにある種の楽しさがあればシニアの方々にも満足してもらえ、長続きする。

今まで、工学系では余り追求していなかった楽しさという指標を入れて、スポーツをつくる、範囲の設定ができる装置を開発する。久保田市長のお考えは、高専学生の課題として、ふさわしいものと思うので、我々としても賛同しますから、ぜひ一緒にやらせていただければと思う。

(久保田委員)

では、後ほどご相談します。よろしくお願ひいたします。

(議長)

ありがとうございました。

(久米委員)

- ・ セントラル硝子の久米です。よろしくお願いします。昨年度は、インターンシップの派遣に御協力いただきましてありがとうございます。社内での発表会に参加しました。何か新たな視点、若い方々の視点で、業務というものを捉えていただきまして、

非常に新鮮でした。

また、これは逆に社内の活性化にもつながるということが今回わかりました。ぜひ、今後とも積極的にインターンシップの受け入れをさせていただきたいと思っております。本当ありがとうございました。

- ・KOSEN-スポーツのロードマップはどうなっているか。

(日高副校長)

- ・今年度から新しいカリキュラムが始まり、プロジェクト学習の科目等に組み入れて行くので、最低4年ぐらいはかかる予定である。

(久米委員)

- ・全体像が見えるロードマップを示し、最終的に目標はこことして進めていただきたい。

- ・スポーツは、そもそも心・技・体の3つが連携してこそ、1つのスポーツとしての意義があると思っている。eスポーツがあるが、果たしてこれは本当にスポーツなのかというのがかねてから疑問である。もっとテクノロジーをスポーツに積極的に生かしていくという別な形があるのではないかと思ったこと也有った。

KOSEN-スポーツは、まさにそれを具現化されていこうとする、その試みであるというように私は捉えている。KOSEN-スポーツの実施にあたり、現存の技術を使われるとおっしゃられていたが、VRやAIにしても、非常に進化が早いと思う。4年間の期間で、技術の進化に追随しながら、現状に満足されずに、どんどん新しい技術を取り入れていかれるという試みをされたらと思う。

- ・新たなスポーツを開発するというミッションもあるが、スポーツを開発していく中で、測定や計測に際して、こういう技術があればいいなという発想が必ず出てくる。それを高専の新たな技術開発のテーマにしていくこと、それを企業と共同で開発していくことも手掛けてほしい。

- ・KOSEN-スポーツという発想は、これまでなかった。スポーツの中に積極的にテクノロジーを活かしていくというのは案外あるようでなかったかなと非常に感動している。ぜひ、進めていかれ、非常に新しいものができると期待している。どうもありがとうございます。

(校長)

- ・今回のプロジェクトの経費は、「KOSEN4.0イニシアティブ」という国立高専機構の事業として配分された。4.0というのは、国立高専機構第4期中期計画（5ヶ年の期間）に向けての助走という意味であり、第4期中期計画でこれを完成させることが目標である。日高は4年でと申しましたが、確かに4年ぐらいで完成させるという意気込みでないと、第4期中期計画最終年で完成しないことになる。

- ・スポーツ科学という分野で、テクノロジーがスポーツで使用されており、運動データ

タを解析して、速く走る方法や高く跳ぶ方法、試合中のフォーメーションの取り方等の改善に利用されている。しかし、我々としてはテクノロジーを利用した新たなスポーツをつくるという所に重心を置くべきと結論して取り組んでいる。

(議長)

ありがとうございました。

(津田委員)

・ KOSEN-スポーツの概要と目的の中に書いてある、分野横断的能力、創造性、それから、問題解決能力というものが、自分の学生時代を振り返ってみると、学生時代というのは知識を学ぶというだけであったと思う。そのときに知識が身についていたのかというと、ついていなかったと思う。

実際に社会に出て、学生時代に学んだものを使って、何らかの活動をやっていく中で、初めて自分で問題解決をしなければいけない。課題を解決しようと自らいろいろなことを想像している中で、振り返って、この意味はこうだとわかる、自分が学生時代に得た知識が本当に身についたと本当にわかる。当時は本当にわかっていない。ただ知識として得た、だから何となく知っているような気もするけれども、本当に身についていないし、わかっていない。

それを学生時代から身につけさせていただくということは、良い取り組みだと思う。創造性と問題解決能力が備えられるようなことを実際にやっていく、そして、それが知識として身について、身についた知識で新たな課題を解決していく、良い循環ができている。こうして育った学生さんたちが日本の未来を担っていただければと思う。

本当にいいお話を伺いました。ありがとうございました。

(校長)

ありがとうございます。

(議長)

では、三隅さん、お願いします。

(三隅委員)

・ 宇部興産の三隅です。インターンシップを含め、就職関係は非常に御協力を願っております。この数年は、我々のほうはどうか言ったら選ばれる側という意識をしていますので、どうやつたら来ていただけるかとどうやつたら興味を持っていただけるかということを必死で人事部が検討し、宇部高専ともお話をしていることと思います。一昨年と去年の採用状況を見ますと、入っていただけない非常に厳しい状況にございますので、ぜひ、来年度はよろしくお願ひいたします。

・ 地域の特性を踏まえて、宇部高専がこういうことをやられていくのに非常に興味を持って、聞かせていただいた。企業人からすれば、これが経済活動のどこに当てはまるかなというところに非常に興味を持つわけだが、これは、水泳で1番になるという

話ではなくて、みんなで健康を維持しようということだから、スポーツというより、どちらかといったらゲームというような気がする。

この取り組みで、高専が育てたい学生像が明確であること、そして、我々企業で見ると、どうやって従業員の健康を増進して維持するかということが企業の役目となっていることから、この取り組みが地域に浸透していくことで、企業としては採用したいというところも出てくるというように思っている。

・質問としては、道具はICTを使ってつくるのだが、判定する部分もICTの機器の利用ということを念頭に置いているということか。

(日高副校長)

そうです。

(三隅委員)

・産業構造が完全に変わらるような世の中に、あと5年も経てばなっていくと思っている。従来型の素材産業じや太刀打ちできないというのは目に見えているので、我々も若い人を中心に、ラズベリーパイとかエッジコンピューターとかを好きに使えるような環境を整備している。

KOSEN-スポーツをやられているというのは、非常に興味がある。これを経済活動にどう結びつけるのかなというところも何か考慮いただければと思う。

・我々企業が欲しい人材というのは、ベースがしっかりとし、基礎学力がきちんと担保されている人になる。基礎の部分をきちんとしていただくということもこの中に含めていただければと思う。

(議長)

コメント等をお願いします。

(日高副校長)

・基礎の部分はしっかりと入れています。学年横断型の科目ですから、5年生が1年生に教える。基礎ができていないと教えられない。一方、1年生は、将来この5年生みたいに説明でき、ものをつくれる人になるという目標を与え、将来のために基礎をちゃんとつくるようにしている。

・経済関係は、この事業で御当地スポーツなどが出てくれれば、それに付随するツール製造や販売の企業が出てきてほしいと期待している。

(校長)

本校からの宇部興産への採用の件は、大変おこがましいのですが、国立高専機構の理事長が、高専卒はそれなりの教育を受けていると、であれば、採用時、高専の本科卒は学卒と同じ給料にしてくださいと、専攻科卒は修士卒と同じ給料にしてくださいと言っています。理事長が、阿南高専出身の日立製作所の社長へお願いしたのですがそれは難しいと言われたそうです。

私としては、総合職で採用していただければと思っています。このような話を機会がある度にしており、本校でも総合職で採用していただいた学生が増えておりますので、長い目で御検討をいただければありがたいと存じます。

(三隅委員)

わかりました。

(校長)

KOSEN-スポーツはテクノロジーの利用ですから、ICT系のもの、材料系の開発のこともあります。場合によっては、材料系の開発で良い商品ができれば、地域経済にも貢献できるとも考えています。

(議長)

ありがとうございました。

(師井委員)

- ・プレゼンの写真の中に本校の卒業生が何人か写っていた。部活を本気でやって、キャプテンをやっていた子たちが、テクノロジーを使ったスポーツについて考えているのは、非常にありがたい。これから発展する計画だというように思った。

- ・山口県は、中学校、小学校とともに地域教育力日本一を打ち出し、コミュニティスクールという仕組みで、地域の方と触れ合う機会が多くなっている。本校は山口県の中でもその先端をいっているというぐらいに地域の方が毎日のように来られる。コミュニティスクールでは、宇部高専を退官された2名の方が火曜日と木曜日に4時ぐらいから、子供に勉強を教えてくださっている。

- ・子供も地域に出て貢献活動や地域行事に参加している。最近、地域行事では子供が運営企画をしている。子供たちに企画をさせ、任せると、すごい発想をする。中学生の発想力をいかに活かせるかが課題だ。

- ・テクノロジーとスポーツと一緒にして、地域発祥のスポーツを考えようとするKOSEN-スポーツの計画というのは、今からの教育と地域活性にとっていいことだなと思っている。お年寄りの方の体の可動域とか運動能力に合わせたテクノロジーを使った道具を作って、運動を楽しめ、健康になるということが、元気な地域つくりという期待をすごく感じさせてもらった。

ぜひ、宇部や山口のためになるような、御当地スポーツを高専から発祥していただけるとありがたいと思う。また、中学校、小学校も活動を一緒にさせていただければと思う。よろしくお願ひします。

(日高副校長)

ありがとうございます。

御当地スポーツをつくるというところで、宇部高専の学生は宇部の歴史を知らないという点があるので、その不足する部分を地域の方々から教えていただきたい。

(議長)

全員の委員からの発言をいただきました。ありがとうございました。

私から、伺わせてください。

実際、これに参加した学生の感想はどのようにだったのか教えてください。

(日高副校長)

感想は次のようである。

- ・スポーツハッカソンから参加した学生

YCAMボールで使うスマートフォンの中に振動センサーが入っていること、そのデータを使えることに驚いていた。

教員としても授業中にセンサーやその用途を教えていたが、実際の商品に使用されていることが理解されていないことがわかった。授業改善の一助となる。

スポーツを作るときに机上のものとリハーサルしたときのギャップに驚いた。

説明の方法、安全への配慮、段取りが大事だと認識した。

ハッカソンは楽しい、スポーツを考える楽しみを感じた。

- ・クラスマッチの競技に参加した学生

競技は体力がない人でも参加できてよい。

普段使っているスマートフォンがこんな道具になることに驚き。

ゴーグルの仕組みを知りたい。

(議長)

学年や学科を混合して実施したことへの感想はありますか。

(日高副校長)

今回は、学生会のメンバーが参加したため、学科は複数ですが、学年は4年生です。日頃から会っている者同士で、意思疎通は出来ていますし、スポーツつくりだけでしたから、通常の学生会活動と同様ということで、特段の感想はありませんでした。

(議長)

非常に興味深い所ですから、これから年ごとに進んでいくと思うので、アンケート等で調査していただければと思います。

(三隅委員)

- ・企業内で利用できるようになればすばらしいと思う。
- ・知財関係はどう考えられておられるか。

(日高副校長)

- ・知財は対応していない。
- ・学校はそのような点が無頓着なところがあるので、ご指摘ありがとうございます。

(議長)

ありがとうございました。

その他、いかがでしょうか。

(久保田委員)

- ・宇部市としても健康づくりという面から、一緒に活動をさせていただきたい。

これまでやってきた活動のキーワードとしては、ニュースポーツ、健康体操、健康の野菜を食べましょう、体操の歌等である。

KOSEN-スポーツの宇部市としてのキーワードは、世代を超えて気軽に、身近に楽しめて、健康づくり。運動のデータが取れるから、エビデンスも作成できる。現在、健康ステーションを設け、保健師の保健指導や管理栄養士の栄養指導も出来るようと考えている。健康指導は、モデル校区やモデル自治会、そして、健康かみうべ21でも、定期的にやっている。これらと、運動のエビデンスと組み合わせて健康づくりを進めたい。また、山口県、そして宇部市も企業の健康経営認証を実施している。健康経営を推進している企業には、KOSEN-スポーツを実施していただき、幅広い年代の方々のエビデンスに基づいた健康づくりを実施していただきたい。

・運動メニューとしては、ウォーキングやストレッチ、ヨガ等があるが、健康づくりに適したKOSEN-スポーツを開発していただけたら、宇部市としてそれを推奨し、広がりの状況を見て、御当地スポーツにしていきたい。

・現在、宇部市が一番支出している経費は市民の健康福祉関係で、健康状況が改善することで、1人当たり年間10万円程軽減できると試算している。行政としては、市民の健康づくり、行政の適正な予算執行を考えると、KOSEN-スポーツを世代を超えて、気軽に身近に楽しめて、エビデンスのとれる健康づくりにつなげるということで広げていき、御当地スポーツしていくことができればと整理をさせていただいた。ぜひ、御検討いただきたい。

(校長)

・ありがとうございます。以前から国立高専は、地元の人材育成、人材供給源としての機関であり、その活動の一つとして、KOSEN-スポーツを地元で受け入れてくれば、これ以上ありがたいことはない。

・先ほど話題になった、eスポーツとKOSEN-スポーツの違いは、コミュニケーションがKOSEN-スポーツには必要になる点である。1人でやることではないから、チーム、あるいはグループでやるスポーツのため、世代を超えたコミュニケーション、あるいは同年代でのコミュニケーションが必要となる。

・先ほど市長がおっしゃった健康データ。これはプライバシーがあるため、取り扱いに注意が必要だが、例えば、山口大学医学部と組んで、集めたビッグデータを解析し、最終的には山口県の中でも宇部市は健康的な市だということがアピールできることを最終的なターゲットとしたい。

(久保田市長)

わかりました。よろしくお願ひいたします。

(議長)

ありがとうございます。

そのほか皆様のほうから何かござりますでしょうか。

(日高副校長)

本校の活動の紹介として、「宇部高専の動き」25ページの宇部高専市民文化サロン「くずし字で読む古典」という形でリベラルアーツも、高専として活動している。工学以外の面も活用していただければと思う。

(議長)

ありがとうございます。

その他、いかがでしょうか。高専や宇部高専全体について何か御意見、御要望がありましたらいかがでしょう。

(安部委員)

4学期制導入の良いところをお聞きしたい。

(教務主事)

- ・4学期制になり、ひとつの学期で開講する科目数が減って7科目程度である。1年間を通じては開講している科目数は以前と変わらない。2学期制のときは試験科目数が十数科目と多いため、試験の前日に詰め込み、乗り切ろうとする。4学期制では、その学期の試験科目数も減り、余裕を持って試験に取り組める。かなり学びやすくなり、詰め込み学習から、理解するのに時間をかける学習にシフトしていると思う。

(安部委員)

海外留学が増えたということもお聞きしたが、いかがですか。

(教務主事)

- ・新しいカリキュラムが年次進行のため、海外留学と4学期制は、まだリンクしていない。3年後に4学年となる学生からリンクする。
- ・現在は、新しいカリキュラム適用の本科1年生と専攻科だけが6月から9月の4ヶ月の間に海外にいくチャンスを作れている。しかし、それでは他の学年の海外留学が難しくなるため、夏休みの期間を長く取れるよう調整している。

(日高副校長)

4学期制の期間の区切りは、お手元の学校だよりの9ページに示している。夏休みの期間は5週間を設けており、海外留学やインターンシップができるようにしている。

(校長)

- ・1年間に100名の学生を海外に送るという計画は、大学教育再生化速度プログラムの事業として目標を立てて実行している。このプログラムは来年度で終わりとなるが、100名の学生を海外へ送るという目標は、今年度、到達できている。

・学生の国際交流報告会があり、印象的だったのは、昨年の11月にマレーシアのマラ工科大学に行った3年生の報告で、マレーシアは中国系、インド系、マレー系など複数の民族が住んでおり、お互い譲り合って国家をなしている。しかし、中国系、インド系、マレー系のそれぞれの学生と個別に話をすると、同じ話題でも異なった意見が出てきて、日本では考えもしなかった、民族による考え方の違いに驚いたという話であった。

・ティーンエイジャーの年代に海外に行くということは影響が大きく、学生の国際感覚の醸成には非常に有効であるといえる。5年経つと、1,000名の学生のうち500名が海外経験者となるので、学生たちが持ち帰ったいろいろな海外の知識やノウハウがいい方向に作用して、学校の雰囲気もかなり変わり、グローバルな見方もできるようになると期待している。

・一生懸命やっている同世代を見ると、自分もやろうという連鎖が生まれる。本日紹介したKOSEN-スポーツや地域教育とあわせて国際交流は学生の成長のために、そしてベトナムへの高専教育制度導入支援の海外展開事業は重要な柱として、継続して行きたい。

(議長)

ありがとうございました。

その他、皆様から何かありますか。

(留学交流室長)

留学交流室長の畠村です。国際交流の関係のイベントのご案内です。本校は、KOSEN4.0イニシアティブ事業として、平成29年度から、「UBE方式：グローバル高専生育成を目指とした次世代型国際交流の確立」を採択されており、その2年間の活動報告として、シンポジウム「地域でグローバル人材を育成するために」を平成31年2月2日、ANAクラウンプラザホテル宇部で開催します。ぜひ、ご参加ください。

(議長)

ありがとうございました。

皆様からは、一通り御意見いただきました。

予定時間となりますので、以上で議事を終了します。どうもありがとうございました。

(総務課長)

本日は、委員の皆様より貴重な御意見をいただきました。

閉会にあたり、三谷校長より謝辞を申し上げます。

(6) 校長謝辞

委員の皆様方、本日は大変貴重な御意見をちょうだいいたしました、ありがとうございました

ざいます。日本は人口減の時代となり、それが非常に気になっているところでございます。国立高専の第4期の期間中は何とか16歳人口100万人を超えていましたが、10年後の第6期を迎えるあたりになりますと100万人を切ります。第8期の2040年度には恐らく70万人台になるのではないかと予想されています。そのときの教育は、どうあるべきかというのを、今から考えておかなければなりません。

宇部高専としましては、その一つとしてKOSEN・スポーツを通じた教育を考えている次第でございます。この実施には、地域の皆様方とのコラボレーション、地域の方々に御協力をいただくということが非常に重要だと思っていますので、今後ともご支援をぜひよろしくお願ひいたします。本日はどうもありがとうございました。

(7) 閉　　会

総務課長の進行により、運営諮問会議が終了した。